

食支援つうしん

—新宿食支援研究会通信—
第11号 2015.11.1 発行

真の名馬であることを表した言葉に「無事名馬」というものがあります。これには、素晴らしい速さを持つ馬や強靱な体躯を誇る馬よりも、病気や怪我もなく立ち続けることができる馬こそが名馬であるという意味が込められています。「無事である」「何事もない」ことがいかに重要か、そして大変であるかということを表しています。

このことは、福祉用具専門相談員の仕事にも当てはまると思います。とかく大がかりな活動で、劇的な効果を得たケースに目が行きがちですが、実は、何事も起きていないケースこそ、目的が達成されていると実感しています。

10月の勉強会でも、福祉用具専門相談員の仕事は、ご利用者の「環境を整える」ことだとお伝えいたしました。もし、環境が毎日劇的に変わり続けたら疲れ切ってしまうし、不安の方が勝ってしまうでしょう。

「無事である」「何事もない」環境を提供し続けるには、何より継続性のある関わり方が必須です。福祉用具と言うと、どうしても導入時の対応の印象が強いのですが、それでは手落ちと言わざるを得ません。目的を把握しながら何かが起きる前には既に対応している、傍目には目立たないようですが、そのような動きこそ必要なものだと考えます。

「食」という、毎日の営みに関わる環境づくりは、まさに、そのような姿勢で為されるのではないのでしょうか。

(福祉用具専門相談員 田中 健一郎)

在宅医療における言語聴覚士の役割

第2回 嚥下食の誤解

最近経験した嚥下食に関する話を一つ。

入院中に嚥下障害と診断され、退院後に言語聴覚士のリハビリや食事のアドバイスが欲しいという依頼があったので訪問することになりました。

初回訪問時、ご家族の方が「病院から、嚥下障害があるので食事はすべて刻んでくださいと指導されました」と話



されたことに、愕然としてしまいました！つくづく「刻み食=嚥下食」と勘違いされている方が多いのだなあと感じました。そのご家族は、病院で伝えられた通りに刻み食を作り（しらすまで刻んでいた！）、ご本人は、刻み食を召し上がり、咽込んでいました。

刻み食は、硬いものと柔らかいものを一律の大きさに細かく刻むため、バラバラになりやすく、口の中で食べ物をまとめにくい食形態といえます。そのため、咽頭に残りやすく、飲みこむ機能が低下している方が、誤嚥を起こす原因になりかねません。

刻み食とは、本来、噛む機能を補完する食形態であり、嚥下食には不向きであることを覚えておく必要があります。ちなみに、刻み食は衛生上にも問題があると言われております！

(言語聴覚士 佐藤 亜沙美)

あなたにぴったりの福祉用具を お選び致します

～福祉用具専門相談員の

ソムリエ的観点～

福祉用具専門相談員 山上 智史

福祉用具専門相談員の「食」との関わり

①道具 (食具・自助具)

②配置



食環境づくり

③姿勢



福祉用具専門相談員の仕事を一言でいうと「環境づくり」です。福祉用具や住宅改修を通してご利用者様の自立しやすい、介助のしやすい環境を整える事が役目です。排泄、入浴、外出、就寝など、生活のあらゆる場面の環境改善を行っています。

もちろん食事場面においても環境づくりは欠かせません。食事場面で福祉用具専門相談員が行うアプローチは、①食具の選定、②配置の改善、③姿勢づくり になります。食事環境を整える事は、口から食べるための第1段階として必要なチェック項目と考えます。

食事に問題があると、「口の機能や飲み込みの機能などに問題はないか」と、つい先に口の周辺に目が行きがちです。しかし、その周辺環境に一度注目してみてください。せっかく口腔体操を行いその機能が向上しても、姿勢が悪く頸部筋が緊張したままだと嚥下機能は思うように改善されません。「使っている食具はその方の状況に適合しているか?」「麻痺側を考慮した配置、自立

機能を活かした配置になっているか?」「テーブルの高さ、車いす調整が適切で嚥下機能に支障のない姿勢になっているか?」とご利用者様がおかれている



「環境」に視線を広げていくことは食事の問題解決に必要となります。

実際の現場でも、「継続的に関わり、その時々に合わせて福祉用具を選定したことで寝たきりの状態から座って食事が自立した方」、「自立機能を活かす配置づくりをしたことで食事を選び→食べる→下膳までの一連の食事をする動作が自立した方」、「テーブルと椅子の改善で食事意識が向上した方」、など、環境を改善する事で食事意欲・姿勢に良い影響を与えるのです。

福祉用具専門相談員は、他職種と連携を取りやすく「見つける・つなぐ・結果を出す」の立場をどれも出来る職種です。食事に問題があると感じたらぜひご相談ください。多種多様な選択肢から、ソムリエ的観点で、適切な選定をいたします。それらは、食事に対する問題解決のヒントになるに違いありません。

食事の場面では多くの福祉用具が関わっています。

ソムリエのような視点が必要



多くの選択肢の中から様々なことを考慮し適正なものを選びます。



口腔ケア用品

食べこぼし防止エプロン

すくい型食器

やわらかパック食具

高さ調整テーブル

スプーン

姿勢保持用車いす

クッション